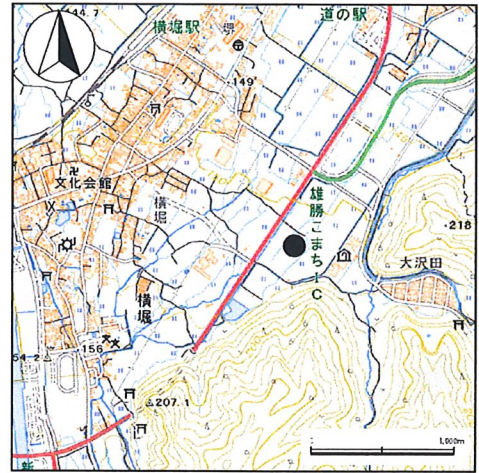


よこぼりなかやしき
横堀中屋敷遺跡発掘調査資料



調査範囲（北から）



遺跡の位置（●印）

※国土地理院発行の電子地形図25000（横堀）を使用

1 調査要項

所在地	秋田県湯沢市横堀字下新田 13、小野字大沢田 225 外
遺跡状況	荒蕪地
調査面積	5,400 m ²
遺跡時期	縄文時代（中期～晩期）、中世、近世
遺跡の性格	集落跡
調査の目的	国道 13 号横堀道路事業に係る埋蔵文化財事前調査
調査期間	令和 2 年 6 月 16 日～ 10 月 29 日
調査主体	秋田県教育委員会
調査担当	秋田県埋蔵文化財センター 文化財主事 赤星純平、学芸主事 鈴木裕
調査総務担当	副主幹 柴田優、主事 渡辺昂
調査協力機関	国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、湯沢市教育委員会

2 調査の結果

検出遺構	主な出土遺物																		
<table border="0"> <tr> <td>縦穴建物跡</td> <td>1 棟</td> </tr> <tr> <td>焼土遺構</td> <td>7 基</td> </tr> <tr> <td>フラスコ状土坑</td> <td>11 基</td> </tr> <tr> <td>土坑</td> <td>22 基</td> </tr> <tr> <td>陥し穴</td> <td>2 基</td> </tr> <tr> <td>水場遺構</td> <td>1 箇所</td> </tr> <tr> <td>カマド状遺構</td> <td>1 基</td> </tr> <tr> <td>溝跡</td> <td>1 条</td> </tr> <tr> <td>柱穴様ピット</td> <td>69 基</td> </tr> </table>	縦穴建物跡	1 棟	焼土遺構	7 基	フラスコ状土坑	11 基	土坑	22 基	陥し穴	2 基	水場遺構	1 箇所	カマド状遺構	1 基	溝跡	1 条	柱穴様ピット	69 基	<p>縄文時代</p> <p>土器（中期末～晩期）</p> <p>土製品（ミニチュア土器、土製耳飾^{どせいみみかざり}）</p> <p>石器（石鏃^{せきぞく}、石匙^{いしきし}、磨製石斧^{ませいせきふ}、石錘^{せきすい}、凹石^{くぼいし}、石皿^{いしざら}）</p> <p>石製品（石棒^{せきぼう}）</p> <p>中世</p> <p>中世陶器</p> <p>近世</p> <p>陶磁器、銭貨</p>
縦穴建物跡	1 棟																		
焼土遺構	7 基																		
フラスコ状土坑	11 基																		
土坑	22 基																		
陥し穴	2 基																		
水場遺構	1 箇所																		
カマド状遺構	1 基																		
溝跡	1 条																		
柱穴様ピット	69 基																		

3 調査のまとめ

横堀中屋敷遺跡は横手盆地の南端に位置し、雄物川支流の寺田川によって形成された標高約149mの扇状地上に立地しています。遺跡の調査範囲は9,150㎡におよび、今年度は東側の5,400㎡の発掘調査を行いました（①北西から撮影）。



調査の結果、今年度調査区の北東側と南西側には、河川跡が見つかり、その周囲には縄文時代後期（約4,000年前）の遺構が確認されました。

北側の河川跡の底部からは、縄文時代後期の土器とともに多量の木材やトチの種子がまとめて出土しました（②）。ここでは河川跡の岸辺を掘りこみ、その上に細枝を切り取った丸木材や板材が敷かれ、岸と同じ高さに積み重ねられていました。その周囲からは、トチの種子を割るための凹石や石皿といった礫石器も見つかっています。これらの状況を検討した結果、この場所は粉碎したトチを水にさらしてアク抜きを行っていた「水場遺構」と考えられます。



器も見つかっています。これらの状況を検討した結果、この場所は粉碎したトチを水にさらしてアク抜きを行っていた「水場遺構」と考えられます。

北西側の河川跡に対面する位置には、長軸4m、短軸2.5mの竪穴建物跡1棟が見つかりました（③）。竪穴建物跡の床面からは、縄文時代後期の土器とともに、

煮炊きに使われた炉跡（写真③赤線部分）や貯蔵に利用されたと考えられる大型土坑も確認されています。堅穴建物跡の周囲には、柱跡などの複数の遺構が認められることから、西側に隣接する次年度以降の調査区にも集落が広がることが予想されます。

河川跡に接する場所では、フラスコ状土坑が11基確認されています（④）。この遺構は、

主に食糧などの貯蔵用の穴として利用されたと考えられており、縄文時代に特徴的な遺構の一つです。横堀中屋敷遺跡のフラスコ状土坑は典型的な形とは異なり、上部が幅広で、中間部がくびれ、底面にかけて広がる形をしています。調査区北東側のフラスコ状土坑から縄文時代後期の土器や石器が出土しており、水場遺構や堅穴建物跡と同時期に利用されたと考えられます。

調査区南端では、2基の陥し穴が見つかりました（⑤）。これらの陥し穴は、上部が削平されていたため完全な形を残していませんでしたが、残りの良い方では開口部の長さ1.7m、開口部の幅70cm、深さ80cm程で、獣道に沿って並べて作られたと考えられています。この遺跡においても標高のやや高い尾根線上の地形に沿って分布していることが確認できました。

今年度の調査では、調査区北側を中心に縄文時代の堅穴建物跡や水場遺構を伴う集落の一部が発見されました。調査区南端では陥し穴が見つかり、狩り場としても

利用されたと考えられます。今後、採取した種子や土壌の分析を行うことで、縄文時代の食生活や環境を知ることができると期待されています。

縄文時代以外にも、中世以降に見られるカマド状遺構や調査区中央を横断する時期不明の溝跡が見つかりました。これらの遺構の性格についても、次年度以降の調査によって明らかにしていきたいです。





次年度以降の調査範囲

写真③

写真②

写真④

凡例

-  竪穴建物跡
-  焼土遺構
-  フラスコ状土坑
-  土杭
-  陥し穴
-  水場遺構
-  カマド状遺構
-  溝跡
-  柱穴様ピット

0 (s = 1/600) 30m

編集・発行
 秋田県埋蔵文化財センター
 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20
 令和3年3月発行

横堀中屋敷遺跡遺構配置図

写真⑤

旧河川跡

旧河川跡

